一宮市国際交流協会（iia）ニュース

かけはし

iia
ichinomiya international association

2021
Vol.88
July

コロナ禍の中の国際交流への挑戦
～onlineのZOOMで親交を深める～

2020.11～2021.5

コロナでリアルな国際交流は全停止。直接会うことが出来なくなった中、私の国際交流グループでは、コロナ終息まで、全ての活動をオンラインのZOOMに移すことにしました。まずZOOMに慣れることから始め、仲間と定期的な活動が出来るように努力。ホームステイ、仲間との国際交流、日本語の勉強会と一つ一つの国際交流活動をオンラインのZOOMで行うことに挑戦し実践して来ました。

ホームステイもディスプレイ上で行い、一宮のホスト家族６人とオーストラリア人のゲスト家族５人の家族同士の交流をセット、事前に家族構成・趣味・写真を交換し、SNSの友達になってもらい、時差を調整して、ホスト開催のたこ焼きパーティーに参加の形でのZOOM交流をスタート。一宮からは、ゲストの子供たちに名前で呼びかけ。メルボルンからは「僕、たこ焼き食べたことないよ」「日本で食べたことあるでしょ。」と親子の会話の中で、短時間の国際交流が続きました。メルボルンの家族が一宮に帰省した際には２家族が一宮で交流してもらえればと祈るばかりです。

他には、当グループのホームステイ、国際料理会、ボウリング大会に参加してくれた日本語学校の留学生に呼びかけてのZOOM会議、ヨーロッパ４か国と日本を結んだ５元交流会。久しぶりの顔を見ながらおしゃべり会。言葉の中心は日本語ですが、２～３の言語が飛び交う不思議なディスプレイ空間でした。ただ、半年で７回実施した国際交流会共通のことですが、日本語を話すことを忘れかけた方も多くなり、聞き手に回られる人が多かった。日本語での交流が出来るように交流回数を多くしなければと思うばかりです。コロナ終息後は、対面とオンラインの両輪で国際交流を続けます。　（佐野）

オンラインでホームステイ!?

静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科　２年　今枝香菜子

私は現在大学で日本語教師の勉強をしていて、日本に働きに来る外国の方にとても興味があり、この春、私はベトナムに交流に行く予定でした。しかし、このコロナ禍のなかでは難しく、初めてオンラインでベトナムの子と交流をしました。

このオンライン交流は４日に渡って、マッチングした相手と１日に数回、通話やビデオ通話で、お互いの文化、生活を体験しようというもの。マッチングしたのは、ヤイちゃんというベトナムの高校二年生の女の子でした。彼女はとても日本語が上手でLINEでの文面はもう本当に日本の友達とやりとりしているかのようでした。日本の友達のような感覚で見る携帯の画面には、ヤイちゃんのお母さんお父さんのバイクとヤイちゃんが学校に行くのに使っているバイクがあり、やはり日本とは違った風景が広がっていて不思議な感覚でした。反対に、私の家のこたつを見るなり、ヤイちゃんは「ドラマで見たことあるやつだ！」と言っていて、それもまた不思議で面白かったです。

これまで私は何度かホームステイで海外に交流をしに行っていました。このプログラムはホームステイの代替だと思っていましたが、手軽にお互いの文化を知るにはとてもいい交流の仕方だと思いました。通話していない時に、次は何を紹介しようか、どこに連れて行こうかなんて夢が広がる素敵な体験をしました。

作ってみよう Asian 料理!
チキン・アドボ（Chicken Adobo）

未だにコロナ禍が収まらず、海外旅行もできない自粛生活中ですが、そんな中、自分流料理をつくり、東南アジアの味と香りのひと時でも楽しんでみませんか。

フィリピンの定番家庭料理といえば、何と言ってもそれは“アドボ”でしょう。夏の暑さで食欲が落ちたとき、ちょっと酸味がありさっぱりした肉の煮込み料理は、食欲を助けてくれること請け合いです。この料理は私たち日本人にも親しみやい醤油ベース味で、ごはんにもよく合います。しかも調理時間が短く簡単で、初めてアジア料理に挑戦する方にもお勧めの料理です。また、肉は手羽元や手羽先、豚肉でもよく、野菜にも特に細かい決まりもありません。お好みの材料選びと味付での自分流アドボを考案して、料理のバラエティーを楽しむことができる料理です。

ところで“アドボ”とは、スペイン語のマリネを意味する"adobar,(漬け込む)"から来ているそうです。

材料（2人分）

◎手羽元（豚肉可）	6本	◎しょうゆ	70ml
◎玉ねぎ	1／2個	◎黒糖	大さじ1
◎にんにく	適量	◎ローリエ	2枚
◎ショウガ	適量	◎黒コショウ	少々
◎水	100ml	◎サラダ油	大さじ1
◎酢	70ml	◎刻みネギ	少々

作り方

① ボールに手羽元としょうゆ、酢、にんにく（包丁で潰します）、ショウガ、黒コショウ、ローリエを合わせ1～6時間程マリネ（漬け込み）する。（マリネ液は後で使います。）
② 玉ねぎを大きめにカットする。
③ 熱したフライパンに油を敷いて、①でマリネした手羽元と②の玉ねぎを入れ、炒めて焼き色をつける。
④ ③に、①のマリネ液を入れ蓋をし20分間ほど煮る。煮汁が少なくなれば少し水を加える。
⑤ 黒糖を加えて数分間弱火で煮る。
⑥ サラダ油を加え、5分ほど弱火で煮込み煮汁が少なくなれば出来上がりです。
⑦ お皿に盛り付け、彩りに適量の刻みネギを振りかけると完成。

（ドリアン）

お別れのメッセージ「ニュージーランド人国際交流員・離任あいさつ」

ロティビオ・カサンドラ

皆さん、私の一宮市の国際交流員としての３年間の契約が終わり、ニュージーランドに帰国することになりました。

３年間一宮市で培った様々な経験をずっと忘れません。一宮市で３年間とても充実した生活を送ることができました。市内の小・中学生にニュージーランドのことを紹介したり、国際交流イベントに参加したり、市民の皆さんといろいろな交流をしたりしました。子供たちがニュージーランドに興味を持ってくれてうれしく思いました。そして、日本語と英語の翻訳はもちろん、たまに通訳もやりました。大きなスポーツイベントの手伝いができて光栄でした。また、一宮市国際交流協会が開催するイベントで市民や協会のボランティアとふれあうことができたおかげで、一宮のことをもっと好きになりました。

国際交流員になって２年目の冬に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大があって、大変でした。一時的に学校訪問が中止されて、多くの

人が集まる交流イベントもできなくなりました。新しい企画として協会のYouTubeチャンネルが開設されて、動画を作成することになりました。（よろしければ、協会のYouTubeチャンネルで私が作ったお別れの動画を見てください！）

私は、一宮市を離れますが、ニュージーランドで頑張っていこうと思います。お世話になった皆さんに心から感謝しています。また会う日まで！

ホームステイ受け入れセミナー はじめよう！ホストファミリー

オンラインで実施　6.20

ホームステイは、一番身近で、心に残る国際交流と言われています。一宮市国際交流協会では年に３回ほどホームステイを企画していますが、海外からの来日制限などのため、昨年からいずれも中止になっています。そんな中でもホームステイに興味を持ち、再開されたら外国の人を家庭で受け入れてみたいという方のためにホームステイ受け入れセミナーが今年も開催されました。

七夕まつりなどの行事に合わせ、週末に１泊程度の短期で募集される国際交流協会のホームステイは、これから始めてみたい方にはぴったりです。より楽しい体験になるためにはどうしたら良いか、このセミナーではホームステイ経験者から体験談を聞きました。

ホストファミリー経験者からは、「普段の家庭の中に受け入れるのが一番で、あまり頑張りすぎない」「家での日常的なルールを最初に説明しておくことでトラブルを避ける」「知識だけでなくどんな味や香りがするか実際に教えてあげられるのがホームステイの醍醐味」といったことを具体的なエピソードを交えて教えてもらいました。

過去のホームステイ事業にて

ゲスト経験者のウズベキスタン出身ダブラドブ ハサンさんからは、「家族のように声をかけてもらうことでハッピーになれた」「言葉がわからなくても大丈夫、伝えようとしてかえってたくさん会話ができた」といったゲストの目から見たお話がありました。

残念ながら今夏もホームステイ事業が実施できないため、海外在住の学生とオンラインで文化交流を行うオンラインホームビジットを計画しています。興味のある方は協会までお問い合わせください。　（伏原）

おとなりさん

今回は、一宮市内の英会話学校で教師をしているジェームス・ハナ先生の登場です。私もハナ先生に、３年以上前から尾西南部公民館の英会話教室で指導を受けてきました。先生の教室では、テキストをあまり使わずに、我々にスピーチの機会を与えてくれるので、毎回が大いに楽しみです。先生は、一宮の教室の皆さんは本当に勉強熱心だと思っています。教室が終わった後も、お茶やランチで引き続き英会話で話が弾むこともあります。先生は、市内外の高校でも英語の指導をしていますが、日本語も話せるので生徒たちも安心です。

ハナ先生は、豪州のシドニーの出身で８人兄弟の５番目です。シドニーにはお母様とご兄弟が住んでいます。シドニーの日系銀行で働いていた時に今の奥様と知り合って、その後1990年に来日し、現在は岐阜県瑞穂市にご家族と住んでいます。ご家族は、奥様と男女一人ずつのお子様がいます。

先生の一番の趣味はラグビーで、プレーだけでなく審判やチームのスカウトもやっています。一昨年のワールドカップが日本で開催されたのは、本当にラッキーでした。時々、教室を他の先生に任せて、ラグビーに出かけたこともあったように思います。

一宮の良いところは、喫茶店にモーニングサービスがあることで、いつも楽しみにしています。逆に良くないところは、交通信号が多すぎることだと言っています。信号のタイミングがうまく調整されていなくて、車の流れがスムーズでないのがお気に召さないようです。スピードには気を付けて、くれぐれも安全運転をお願いします。

好きな食べ物は、うなぎ丼ぶりです。和食ではありませんが、ミートパイも好物です。日本食のほとんどの食事は問題ありませんが、納豆だけはどうしても食べられないようです。30年以上住んで、もうほとんど日本人のハナ先生でした。（荒楠）

iia information

＊iiaでは、協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

グローバルサマーセミナー・オンライン

小中学生の夏休み期間にあわせて、国際理解セミナーの動画を協会YouTubeチャンネルに投稿します！

日にち：７月21日（水）から８月31日（火）まで

動画内容：フランス人落語パフォーマーによる爆笑英語落語！ほか国際理解セミナー動画計５本

出　演：フランス人落語パフォーマー「シリル・コピーニ」ほか

視聴方法：８月31日までに協会ウェブページからアクセスしてください

©Cyril Coppini

iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。

Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.

iia公式YouTubeチャンネル

イベントやセミナーの様子などを配信しています。是非チャンネル登録してください。

地球あっちこっち

米国の6年間

森　頼康

私は37歳の1979年から６年間、米国の陶磁器食器輸入商社に勤務しました。米国には「花嫁の選んだ絵柄制度」があって、そのトップを飾るのは英国や米国でもない、日本のノリタケチャイナで、大手百貨店の食器売り場で一番広いスペースを確保できていました。

米国赴任の最初はシアトル支店で、担当はワシントン州のほか、オレゴン州、アイダホ州、ワイオミング州とアラスカ州の５州。転勤２年目の７月、サンプル皿を携えて、北から南へと、フェアバンクス、アンカレッジ、ジュノー、ケチカンの各市を訪問しました。最初の訪問地フェアバンクスは、その夜は白夜。夜11時過ぎても明るく、真夜中でも暗やみにならない。そして朝３時には太陽が上ってくるではないか。こんな経験したことない。殆ど寝られず、頭はボケボケ。翌朝、地元百貨店の社長が迎えに来てくれて「売り場担当者30人程集めてあるから、今年の新柄を中心にして、売り込みのポイントを説明するように」と言われて頭は真っ白。冷や汗たらたらでした。

３年５か月後、シンシナティ支店に異動になりました（当時41歳）。米国中西部オハイオ州にあり、担当はほかにミシガン州、インディアナ州、ケンタッキー州の４州です。その中で、ケンタッキー州レキシントン市を訪問した時の話です。レキシントンはルイビル市に次いで２番目に大きい街で、バーボンや競馬場で有名な田舎の都市です。食器店主と一時間ほど話をしましたが、こちらの話は通じている印象でしたが、店主の話す英語が聞き取れない。いわゆる「米国南部訛り」で、同行のセールスマンに通訳してもらう羽目になりました。英語を英語で通訳してもらうという初めての経験でした。最後に店主から、既に廃番になって製造してない絵柄のサラダ皿やティーポットがどうしても欲しいという常連客がいるが何とかならないかと言われました。お客さんから言うと、６人用、12人用のセットの中で、１つ欠けてもダメという意識が強い。セットで揃えるという欧米の習慣を改めて知りました。

さて、最後になりますが、６年の歳月が流れ、ようやく帰国できることになりました。子どもは３人いて、一番上が小学校２年で渡米し、中学校２年生で帰国となりました。英語は話すことから入り、音感で覚えましたので、自然に馴染み、バイリンガルになったのが良かったことです。無我夢中だった６年間。日本には、我々の帰国を待ちわびている79歳の母親が一人でいる。感慨ひとしおの気分でした。

帰国して新幹線で岐阜羽島駅へ着いたとき、駅のホームに、母の顔、義父母の元気な姿を見て安堵しました。

編集後記

最近、私の趣味に仲間入りした野鳥観察とその写真撮影。高齢者と呼ばれる年齢になった今、楽器、オーディオ、マラソン、登山etc。これ以上趣味が増えてはという危惧こそあれ、好奇心や探求心旺盛であることは堂々と喜びたい。その上、旧い欧州車をレストアして乗りまわしたいと願う私の中の少年は今も健在だ。このコロナ禍を乗りきるためにはこんな柔軟性も役に立つと信じたい。さて…、そんな事より次の週末は何処の森へ行こうか。（you都市）

発行：一宮市国際交流協会（〒491-8501　一宮市本町2-5-6　一宮市役所本庁舎9階 商工観光課内）

ご意見・ご感想お待ちしています　【TEL:0586-85-7076　E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください
【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/　Facebook:https://www.facebook.com/iia138】
＊この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。
みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。